

「結果につながる家庭学習」

令和 6 年 11 月 30 日 (土)

北海道札幌英藍高等学校 有涼 綾悠

1. 授業形態と生徒の実態

初任者 2 年目、私は昨年同様 1 年次の数学 I・A の授業を担当しています。後期は、発展、標準 1、標準 2 の 3 展開で習熟度別授業を行っており、今年度は発展を 2 クラス、標準 2 を 1 クラス担当しています。

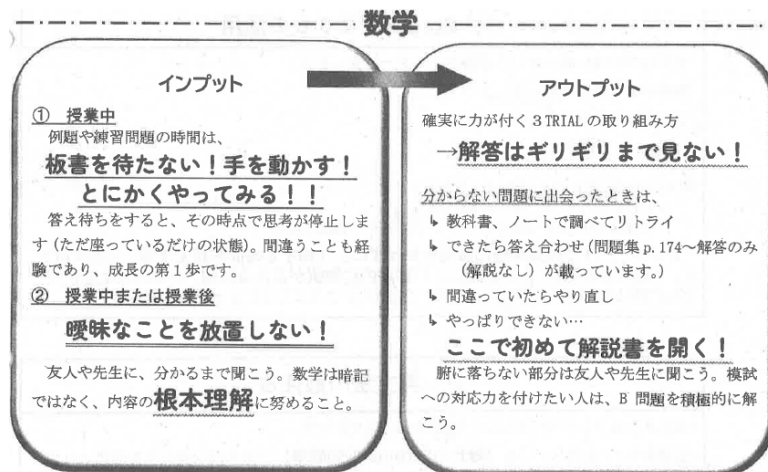
今年度の 1 年次は、全体的に大変活発な生徒が多く、休み時間のみならず授業中も元気で、積極的に発言する生徒が多いです。発展クラスでは、難易度の高い問題を与えても、簡単に解くことのできない状況を楽しんでおり、標準 2 クラスでは、苦手ながらも理解しようと真剣に授業に取り組んでいます。また、他者との交流も活発に行われ、昨年私が課題としていた「協働的な学びの充実」が実現されている環境です。

2. 発表の経緯

上で述べたように、今年度の 1 年次は授業中の雰囲気も良く、意欲的に取り組む生徒がほとんどです。しかし、このような生徒の姿勢と、テストの結果に大きなギャップを感じていました。ここまで主体的に学習に取り組み、他者と協力して課題を解決している様子が見受けられるなら、もう少し点数が取れるはずなのに。このギャップが生じる原因を考えた結果、私は「家庭学習」に着目しました。

3. 学習方法の指導

生徒が問題集やプリントなどに取り組む様子を見て気になったのは、「解答に頼ってしまう」ことです。やったつもり、理解したつもりという状況に陥る原因の 1 つと考え、10 月の進路だよりの中で学習方法を提案しました。



4. プリント

①毎日宿題（提出任意）

数学Ⅰ 宿題プリント

9月20日
有涼

組 番 氏名

(1) 次回から出題します

☆宿題の取り組み方

- ①毎日全員に配付しますが、提出は強制しません。
- ②総提出回数によって、評価の際わずかに加点します。
- ③問題は、前の時間に学習した内容についてです。練習問題の数値を変えた程度の、5～10分ほどでできるものです。
- ④人のものを写しているのを目撃した、写したと思われる（明らかにおかしい間違いを仲の良い人同士がしている等、割とバレます）、解答があまりにも雑すぎる、など、加点するのにふさわしくないものは未提出扱いにします。（未提出にしたよ～とかは特に伝えません。）また、授業直前の休み時間に取り組んだものは未提出扱いとします。
- ⑤自由欄のみの提出も認めますが、加点にはなりません。

自由欄 ※成績には影響しません。

☆授業でつまづいたところ、3TRIAL で分からなかった問題、先生へのコメント、最近の悩み等…

（無ければ空欄で良いです。）

次回の授業で回収します。忘れずに!

②小テスト対策シャッフルプリント

小テスト対策プリント

- | | |
|--|---|
| (1) 8人から2人を選び選び方の総数を求めよ。 | (7) 12枚の異なるカードの中から9枚を選び選び方の総数を求めよ。 |
| (2) 大人5人と子ども5人が輪の形に並び、大人と子どもが交互に並びような並び方は何通りあるか。 | (8) 7人の大人の中から3人、6人の子どもの中から3人を選んで6人の組を作るとき、何通りの組が作れるか。 |
| (3) 4個の文字 a, b, c, d を、重複を許して次の個数だけ1列に並べるとき、何通りの文字列が作れるか。
① 2個
② 3個 | (9) 6個の問題に○、×をつけるとき、○、×のつけ方は何通りあるか。
(10) 正五角形について、次の数を求めよ。
① 3個の頂点を結んでできる三角形の個数
② 対角線の本数 |
| (4) 正六角形について、次の数を求めよ。
① 4個の頂点を結んでできる四角形の個数
② 2個の頂点を結ぶ線分の本数
③ 対角線の本数 | (11) 大人5人と子ども10人の中から5人を選び、次のような選び方は何通りあるか。
① すべての選び方
② 大人2人、子ども3人を選び |
| (5) 5人が1回じゃんけんをするとき、手の出し方は何通りあるか。 | (12) 大人3人と子ども3人が輪の形に並び、次のような並び方は何通りあるか。
① 大人と子どもが交互に並び。
② 特定の子どもA, B が隣り合う。 |

昨年度から継続して作成・配付しているプリントです。ほんの少しでいいから毎日授業以外で数学に触れる時間を作ってほしい、という願いによるものです。下の自由欄も毎回設けており、これは、自分の学生時代の経験から着想を得ました。私が高校生の時は、分からないことや理解が曖昧なことがあればすぐに職員室に行き、教科担任に聞いて解決していました。数学は根本理解が大事な教科なので、本来であれば全員同じようなことをするのが理想です。ただ、簡単にできることではないですよ。授業前後も、移動教室の授業により、質問する時間が確保できないことがほとんどです。そこで、時間がなくても質問できる場を設け、曖昧な部分を放置しない習慣を付けさせたいという思いでこの自由欄を設けました。

小テスト範囲の教科書の練習問題を、ページをシャッフルして並べたプリントです。問題集は学習した順番に出題されているため、解法をイメージしやすいというメリットがあります。一方、ヒントや流れがないと解くことができなくなったり、問題をしっかりと理解して状況判断することが苦手になる恐れがあるというデメリットもあると考えます。本校では、毎週金曜日に週末課題として問題集に取り組みせ、課題範囲の内容についての小テストを翌週の月曜日に実施しています。このシャッフルプリントは、毎週金曜日に、標準2クラスは全員、発展クラスは希望者（毎回9割程度）に配付しています。

5. まとめ

4で紹介したプリントのうち、②を配付し始めてから小テストが3回ありました。

10月28日	発展	発展	標準2	学年
平均点	7.3	7.4	5.9	6.0/9
クラス順位	2	1	4	計11

11月6日	発展	発展	標準2	学年
平均点	7.4	7.8	6.6	5.9/10
クラス順位	2	1	3	計11

11月11日	発展	発展	標準2	学年
平均点	5.9	6.1	5.5	4.7/8
クラス順位	2	1	3	計11

11展開中、発展が4クラス、標準1が3クラス、標準2が4クラスあります。数学が苦手な生徒が集まっている標準2クラスの結果を見ると、他の発展クラスより平均点が高いことが分かります。当然、学級ごとの学力差も影響していると思いますが、週末課題以外の家庭学習や、日々の復習が結果につながっていると感じました。自宅で課題に取り組むと、終わらせて満足する、面倒だから答えを写す、など、やった気になりがちですが、普段の授業だけで100%習得することは難しいです。だからこそ、自主的、意欲的な家庭学習が求められると考えています。また、1度高得点を取ると、その後のモチベーションにもつながり、より一層家庭学習の質が向上すると考えます。実際、発展クラスの生徒は毎回満点を取りたい、標準2クラスの生徒は頑張っで満点を取ってみたい、と、クラス全体が意欲的な空気になりました。

気持ちのもっていき方やモチベーションの持たせ方は生徒の実態によって様々ですが、授業以外での学習について今後も考えていきたいです。